

第3号議案

2024年度 自治体学会事業計画（案）

I 自治体学会鹿児島・日置大会の開催

第38回大会を鹿児島県日置市で開催する。企画実施は、企画部会が行う。

期 日：2024年8月23日（金）、24日（土）

会 場：日置市中央公民館（日置市伊集院町郡一丁目100番地）

テーマ：「まちづくりと地域人材の リ・デザイン」

内 容：全体会、分科会、研究発表セッション、ポスターセッション、
総会、学会賞表彰式、情報交換会、エクスカージョン

特記事項

- ・23日に第37回全国自治体政策研究交流会議が日置市主催で開催される。テーマは「日置市における自治体職員のキャリア形成戦略」。
- ・23日に自治体学会の研究発表セッションを開催する。
研究発表セッション終了後、市内の「十八番館」で、学会賞表彰式及び情報交換会を行う。
- ・エクスカージョンは、24日（土）の学会終了後に実施する。

II 総会・評議員会・理事会・各部会等の開催

1 総会の開催

大会にあわせて、総会を開催する。

2 評議員会・理事会等の開催

理事会及び評議員会を適宜開催する。

学会事業実施のため、企画部会、編集部会、地域支援部会、研究支援部会、総務部会、学会賞委員会、役員推薦委員会、魅力向上方策検討委員会、情報発信方策検討委員会等を適宜開催する。

III 事業の実施

1 学会誌の発行

学会誌「自治体学」を年2回（38-1号、38-2号）発行し、会員全員及び関係機関等に配付する。

学会誌の編集は、編集部会が行う。

2 学会賞の授与

田村明まちづくり賞及び研究論文賞の募集を行い、優れた者を表彰する。あわせて、自治体学研究奨励賞も表彰する。選考は、学会賞委員会が行う。

3 研究活動への支援

会員から、研究論文及び研究ノートを募集し、投稿論文等について、査読者による査読結果をもとに、研究支援部会が、学会誌に掲載する研究論文、研究ノートを決定する。会員の研究成果を広く知ってもらうため、学会誌に掲載した研究論文・研究ノートを「J-STAGE」に掲載することを進める。

4 学会の活性化を目指した事業の実施

自治体学会講演会等を地域支援部会が中心となって実施する。学会賞を受賞した“まちづくり活動”について、そのまちづくりを担う市民と連携し、現地を訪問し“まちづくり活動”を学ぶ事業を実施する。また、自治立志塾については、西村理事による「都市の読みこみから始まるまちづくり」をテーマにした集中講義を実施する。2025年2月に滋賀県で第1回を開催する。

会員の拡大を目指し、学会の魅力向上について、魅力向上方策検討委員会で検討した内容、例えば、会員が提案できる協働事業等を具体化する。併せて、大会のあり方についても検討する。

5 情報の提供、会員の交流促進

ホームページによる情報提供、メーリングリスト、会員名簿等を活用し、会員相互の交流に努める。情報発信方策検討委員会で、ホームページ「ジのあり方や情報発信のあり方について検討し、具体化する。また、「フェイスブック」「X(ツイッター)」等のSNSを活用した活動についても検討・実施する。

現在のメーリングリスト運営会社が2025年4月をもって、ML業務を終了するので別のML運営方法を検討する。

6 まちづくり活動への支援

(1) 地域活動の支援

会員が主体となって実施する地域活動のうちフォーラム等の開催及びその報告書の作成を支援する。

(2) 自治体学会の設立趣旨に適合する事業への名義後援

7 コロナ禍後の学会活動の検討

コロナ禍後の社会における様々な変化を見据え、学会運営及び大会運営のあり方等を検討する。学会の活性化に向けて、リモート会議システム等の活用を検討する。同時に、現場・現地に集まり交流・研鑽する活動も新たな展開を検討する。

また、コロナ禍による学会活動への影響も考慮し、中期事業計画の中間見直しを行う。

IV 運営

1 学会ガバナンスの確立

機能的・合理的・行動的でコンパクトな学会運営を行う。

安定的な学会活動のために、学会運営の諸課題への対応を図るとともに中期事業計

画をもとに学会の効果的・効率的な運営を進める。また、各部会でデジタル化の活用を含め、事業の見直しを行う。

2 事務局の運営

保管資料の整理を一層進め、事務局体制の見直しを進める。既存書類のPDF化を進める。総務部会は、事務局を補助する。

3 オンラインの活用

オンラインを活用した会議等を進める。